

九州都市学会 2022 年度春季例会

2022 年 6 月 11 日（土）

発表表題：「軍港都市佐世保における旧軍用地の分布と転用状況」

発表者：久留米大学大学院比較文化研究科後期博士課程 川嶋健司

発表要旨

本研究は、軍港都市佐世保における旧軍用地の分布と転用状況を考察したものである。旧軍用地は旧陸海軍などの軍用財産である。戦後遊休国有地として残された旧軍用地を戦災復興の基盤として転用される。佐世保においては軍港佐世保港周辺に多数分布しているが、その分布状況は海軍鎮守府から半径 1.5 km、3.5 km、7 km以内の分布状況では旧軍用地の用途が異なることがわかる。半径 1.5 km以内には海軍の中樞施設、3.5 km以内では軍人宿舎など、7 km以内では水道用地などであり、施設用途に応じた分布内容が確認できる。

旧軍用地転用の特徴としては、旧軍用地がまとまった土地であることから、都市基盤として佐世保の都市構造の形成基盤となり、工業用地として転用されることで産業振興が図られるが、佐世保における特徴は、戦後の米海軍、海上自衛隊の立地に大きな影響を及ぼすところにある。